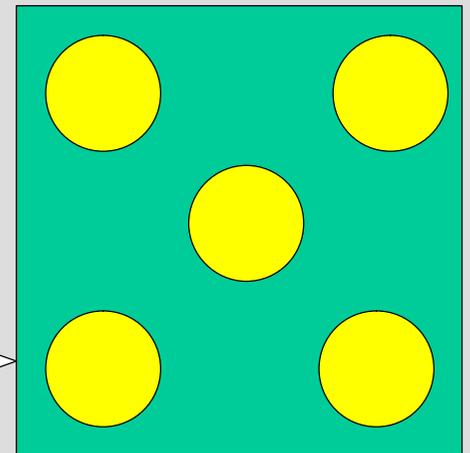


尿沈渣

- 試料 : 定性項目陰性プールに固定した赤血球と白血球を添加した1試料
- 鏡検法 : 自施設の日常検査法に基づき沈渣を作成。鏡検はカバ - ガラス指定5箇所を計測し平均値を求めた。
- 参加施設 : 100施設

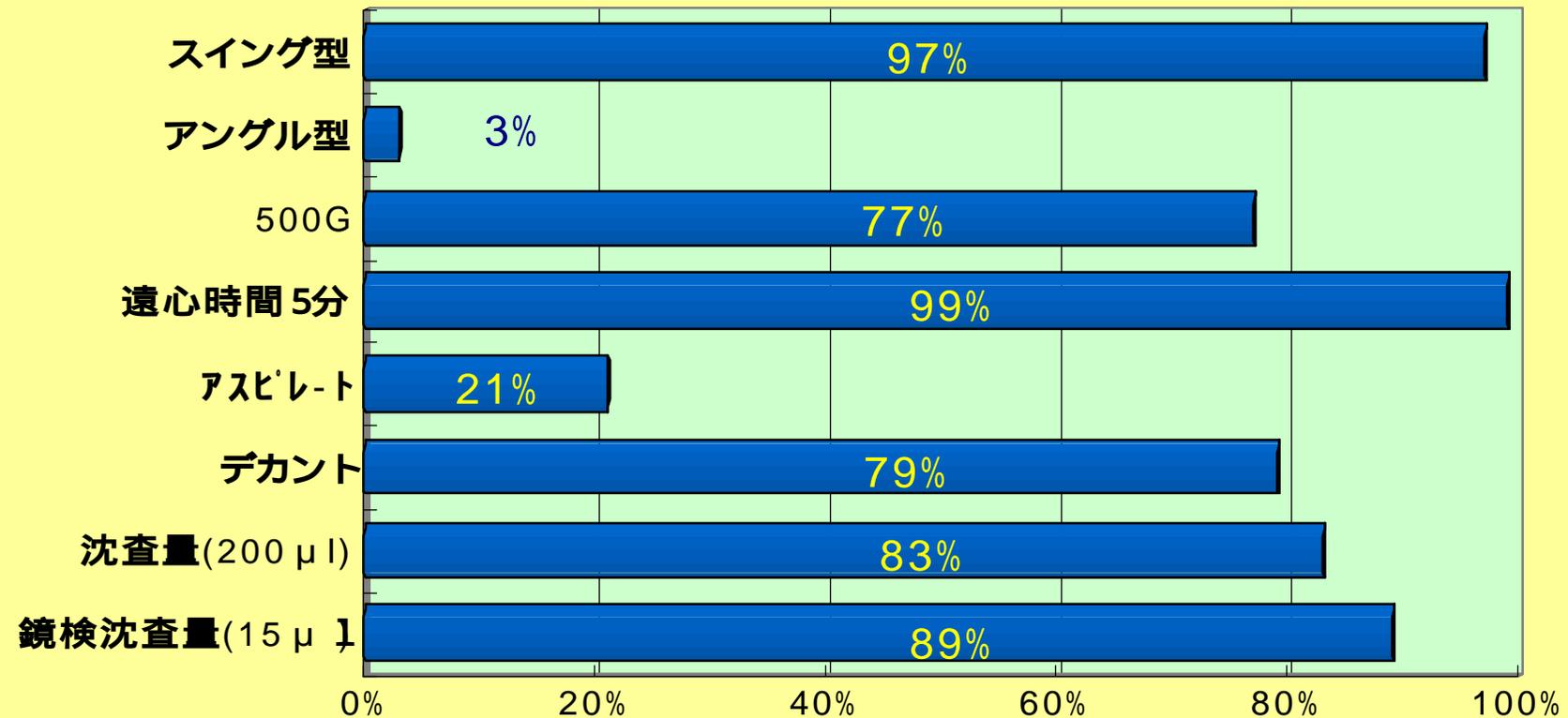
5箇所鏡検



H15年度尿沈渣作成状況

日臨技尿沈渣2000 : 遠心機スイング型、500G、遠心時間 5分
アスピレーション、沈渣量 200ul、鏡検量 15ul

参加施設 :100



尿沈渣サ - ベイ成績

赤血球	平均個 /hpf	SD	CV (%)
デカト	41.9	21.52	51.4
アスピレ-ト	30.3	16.76	55.3
日臨技準拋法	26.2	12.51	47.7
参考 (日立6800)	19.6		

白血球	平均個 /hpf	SD	CV (%)
デカト	35.1	19.21	54.7
アスピレ-ト	26.5	14.78	55.7
日臨技準拋法	24.5	12.23	49.2
参考 (日立6800)	21.5		

まとめ

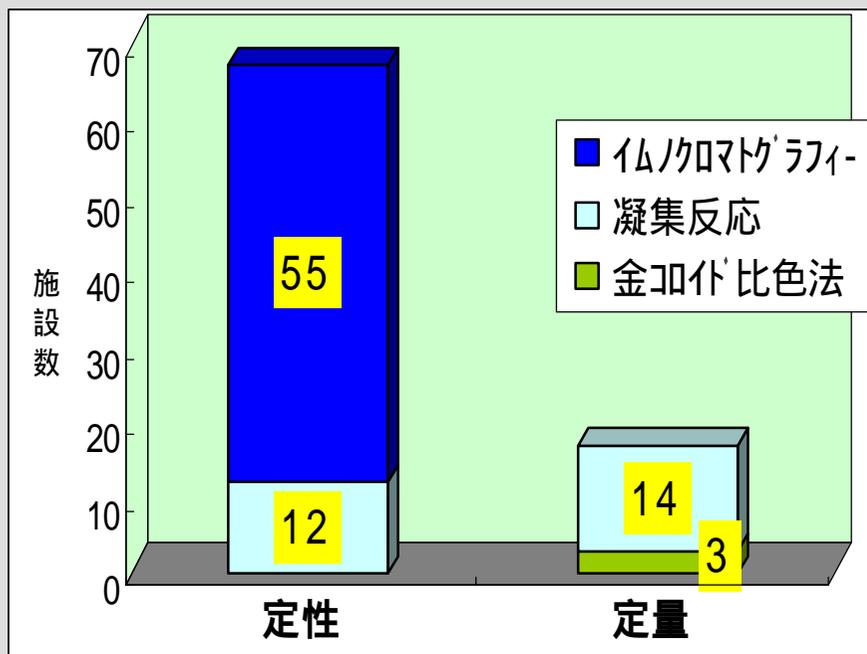
- 1)尿沈渣作成法が沈査成績の施設間差の原因と考えられる。日臨技法を採用している施設12%の成績は最もバラツキと解離が少ない。
- 2)早期に作成法の統一化をはかる必要がある。

便潜血

- 試料 : ヒトヘモグロビン添加擬似便 2試料
- 参加施設 : 84施設
免疫学的定性 : 67
(化学法のみ 1施設、併用 19施設)
免疫学的定量 : 16
* 定量は各施設でカットオフ値が異なるため、
判定報告のあった13施設のみ集計
- 試料目標値 : 試料 A : 88ug/g便 (陽性)
試料 B : 4ug/g便 (陰性)

便潜血成績

検査法の現状



免疫学定性

	試料 A	試料 B
陽性	67	2 (±:2)
陰性	0	63
一致率	100	94

免疫学定量

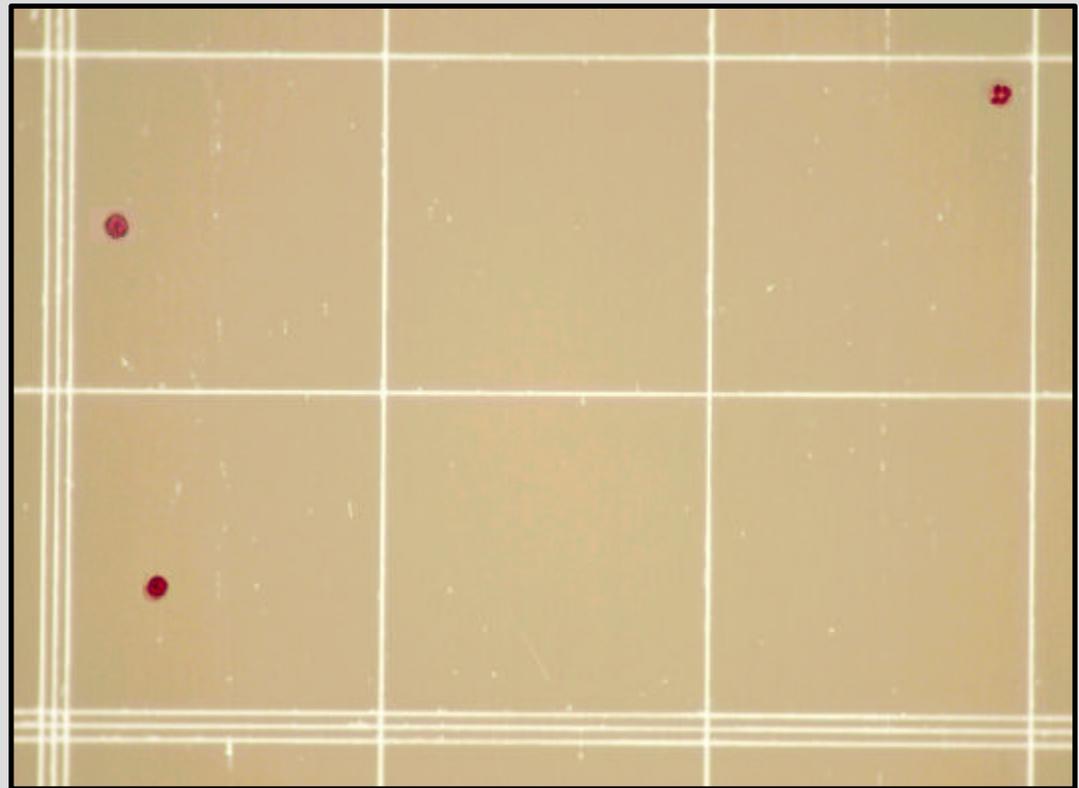
	試料 A	試料 B
陽性	13	0
陰性	0	13
正解率	100	100

便潜血まとめ

- 1) 便潜血検査は、少ない検体数と簡便性などから定性法を採用する施設多かった。
- 2) 便潜血測定試薬は種類が多く最小検出感度が同一メ-カ-でも異なることがある。
- 3) 今回、一部の試薬で目標値と解離した。
今後施設間差是正する為にも検出感度の統一化が必要と思われる。
- 4) 便潜血は、精度管理用試料の作成が難しいことからあまり普及していない。
- 5) 擬似便によるサ-ベイを今後も実施ししたいと考えている。

髄液検査

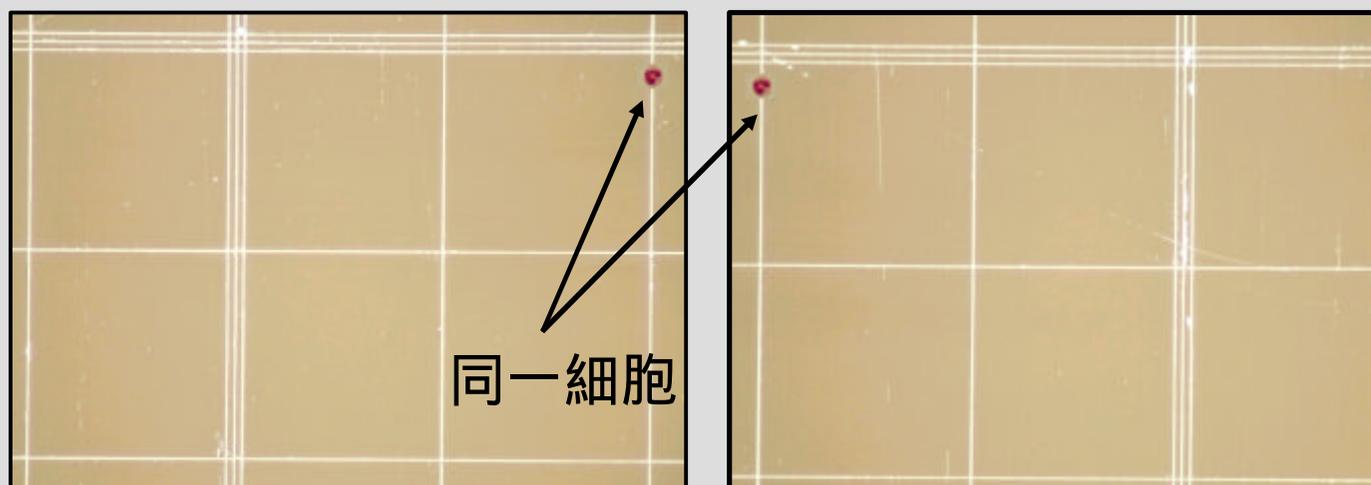
- 試料 : Fucks-Rosental計算板の髄液細胞の動画
ファイルをインタ - ネットおよびCDで配布
- 鏡検法 : パソコンの
Media playerで閲覧。
実際の鏡検と同様に
計算板がスクロールし
細胞を計測する。
- 参加施設 : 83施設
- 正解 細胞数13/ul
(髄液検査2002 /ul推奨)
細胞比率 : 17:22 (M : P)



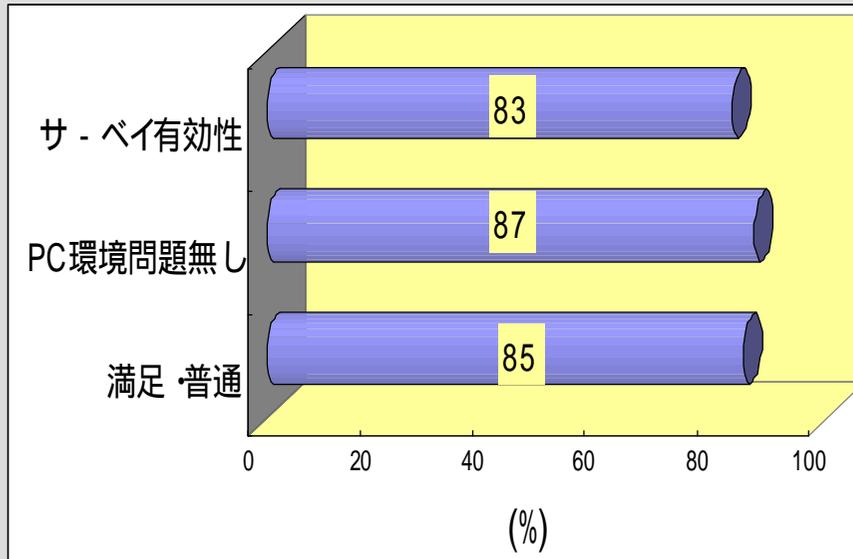
髄液検査成績

- 細胞数正解 :51施設 (61%)
- 細胞比率正解 :42施設 (51%)

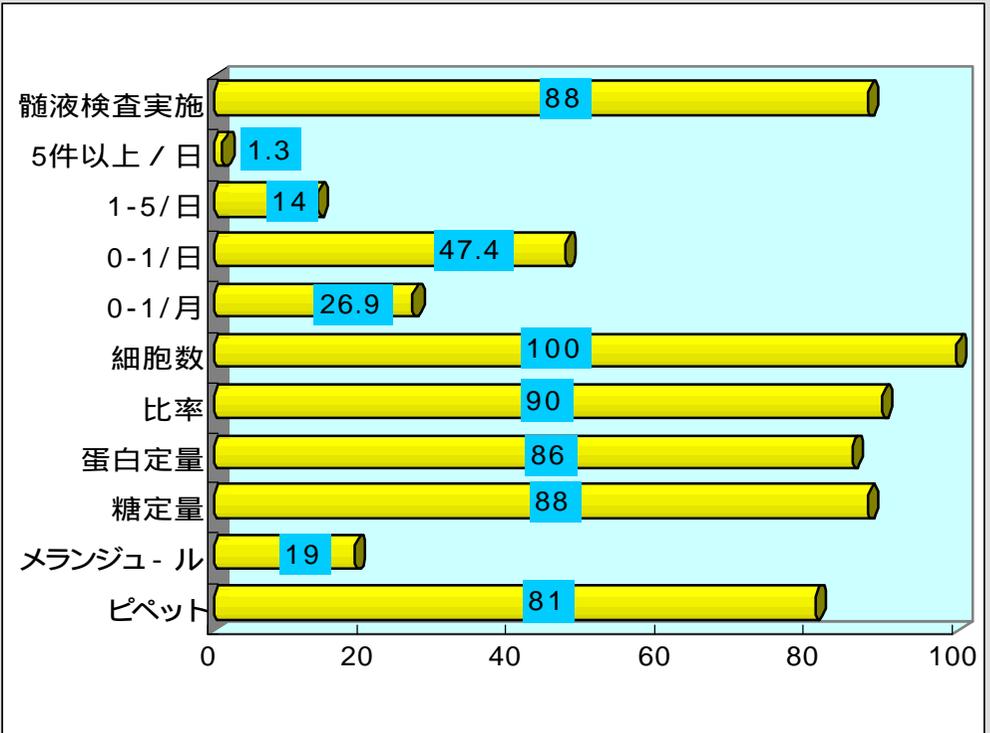
* 正解率が低い原因 :前後の画面に同一細胞を表示させたが、これらを別にかウントした。



動画サ - ベイアンケート



髄液実施度アンケート



まとめ

今回第一回目の髄液サ - ベイを行った。今後、髄液検査2002に基づき操作法、報告単位(髄液検査2002は / μ l推奨だが /3報告が84%)の統一化したいと考えている。